

中学校給食に関するアンケート結果の分析・考察について

<給食の利用状況>

- ・給食の利用率は30%台と低く、給食を利用していない場合は、家庭弁当を持参するケースがほとんどである（アンケート結果と実際の利用率との齟齬はなかった）。
- ・生徒が給食を食べない理由としては、約6割が『おいしくない（おいしくないと聞く）』と回答し、同じく約6割が『家庭弁当を食べたい』、また、約4割が『先輩や友人からの評判がよくない』と回答している。
- ・また、給食を利用していない生徒のうち、約7割（1年生は約8割）が給食を『一度も食べたことがない』と回答しており、自由意見において『評判が悪く、給食を頼みにくい』と回答した生徒がいるように、周りからの評判により、給食を利用しにくい状態になっていると推測される。
- ・一方、保護者が給食を利用しない理由では、約9割が『子どもが希望しない』と回答していることから、給食利用の選択にあたっては、利用者本人である子どもの希望が強い影響力を持っていると考えられる。
- ・現在、小学校6年生（新中学生）や中学生の保護者向けの試食会を開催しているが、生徒からは『生徒向けに試食会をしてほしい』、『一度食べてみたい』という意見があるほか、保護者からも『体験的に一度試せる機会がほしい』、『悪い評判を払拭するための試食会を開催すべき』、『全員が給食を食べる給食月間や給食週間の日を作ってほしい』という意見があることから、在校生への試食会の開催など、費用対効果も勘案しながら、生徒本人へのアプローチの手法も検討する必要がある。

<給食の味付け等>

- ・おかずの味付けについては、生徒の半数以上が『ちょうどよい』と回答しているが、4割近くは『味付けが薄い』と回答している。
- ・また、「給食の良いところ」として『おいしい』と回答した生徒は1割以下と低い割合となっているが、生徒の自由意見では、『魚や野菜など苦手なものが多い』、『パプリカを使うのを減らしてほしい』、『お酢を使った料理を減らしてほしい』、『麻婆豆腐のレトルトはやめてほしい』という意見が多い一方で、『デザートを増やしてほしい』、『揚げ物（からあげなど）を増やしてほしい』、『肉系の料理を増やしてほしい』、『ラーメンなど麺類を出してほしい』という意見も多いなど、特定の食材やメニューに偏った意見も多く、中学生の嗜好や好き嫌いなども反映した回答結果であると考えられる。
- ・本市の中学校給食は、食育の「生きた教材」として、中学生が食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができるよう、多様な食品を使い、栄養のバランスや旬の食材、行事等の季節感などを考慮して献立を作成しており、引き続き、バランスのとれた献立作成に努め、中学生の嗜好も十分考慮しながら、中学生においしいと感じてもらえるような味付けや献立内容のさらなる工夫を検討する必要がある。
- ・なお、ランチボックスについては、『オレンジ色の容器は食材が映えない』、『食欲がわかない』という意見が多いことから、おいしく見える工夫として、ランチボックスのリニューアルを行うことが必要である。

<給食の量>

- ・ごはん、おかずともに、給食の量については、生徒の約4割が『ちょうどいい』と回答しているが、男女別の結果では差が大きく、男子の約3割が「量が少ない」と感じている一方で、女子では約6割が「量が多い」と感じている。
- ・生徒の自由意見では、『大盛りなど量を選べるようにしてほしい』、『お代わりができるようにしてほしい』という意見が多く、また、保護者からも『男子、女子で同じ量であることに無理があると思う』、『スポーツをしているため、量が足りない』、『女の子にはご飯の量が多い』という意見があった。
- ・また、『ご飯の量、おかずの量を選べると利用しやすい』という意見があったほか、今後の中学校給食の魅力化に向けた設問でも、生徒の2割以上、保護者の3割以上が『ご飯の量を選べる』と回答し、また、生徒・保護者とも2割以上が『おかずの量を選べる』と回答しており、給食の量が調整できないことが給食を利用しにくい一因になっていると推測される。
- ・体格など個人差が大きくなる成長期にある中学生の適切な栄養量の確保という観点を十分に踏まえたうえで対応を検討する必要がある。

<献立内容の充実>

- ・今後の中学校給食の魅力化に向けた設問では、生徒の約6割、保護者の7割以上が『おかずを温かくする』と回答しており、最も希望が多かった。
- ・現在、温かいメニューとして提供しているレトルト（カレー等）や汁物（みそ汁等）についても、生徒の約2割が回数を増やしてほしいと回答しており、保護者も3割以上が汁物（みそ汁等）の回数を増やしてほしいと回答している。
- ・また、生徒の約半数が『デザート（ゼリー等）の回数を増やす』を希望しており、家庭弁当にはない給食の楽しみとして、デザートの提供に魅力を感じていることが考えられるほか、生徒の約3割が『パンが食べられる』と回答しており、米飯以外の主食としてパンを希望する生徒も多かった。
- ・自由意見では、『小学校の給食メニューや人気メニューをもっと取り入れてほしい』という意見や、『揚げ物（からあげなど）を増やしてほしい』、『汁物（みそ汁等）の回数を増やしてほしい』、『ふりかけやドレッシングを増やしてほしい』、『レトルトの回数を増やしてほしい』、『パンを出してほしい』、『肉系の料理を増やしてほしい』、『白ご飯以外も出してほしい（しゃげご飯やわかめご飯など）』などの意見が多かった。
- ・そのほか、『バイキング制にしてほしい』、『複数のメニューから選べるようにしてほしい』という意見もあった。
- ・アンケート結果での意見は多岐にわたるが、温かいメニューやデザートの提供回数を増やすなど、栄養バランスがとれた温かくておいしい、また楽しい給食が提供できることを基本として、献立内容のさらなる充実を検討する必要がある。

<牛乳の飲用>

- ・牛乳については、生徒の約8割が『いつも残さず飲んでいる』と回答しているが、『残していることが多い』または『いつも残している』と回答した生徒が1割以上おり、牛乳の飲み残しが常態化している現状がある。

- ・牛乳を残す理由としては、生徒の約4割が『味が苦手だから』、3割以上が『他の献立と味が合わないから』と回答している。自由意見でも『ご飯に牛乳は合わない』という意見があり、米飯の給食と牛乳の組み合わせに違和感を感じている生徒も多いと考えられる。
- ・学校給食摂取基準に基づく適切な栄養量の確保を図るためには、カルシウムの豊富な牛乳の飲用は望ましいことから、牛乳の飲み残しが減るような工夫を検討する必要がある。
- ・また、「牛乳は子どもの成長に必要なカルシウムを豊富に含んでいるため、アレルギー等の理由がある場合以外は牛乳を勧めている」ことについて、生徒の7割以上が『知っている』と回答しているものの、2割以上は『知らなかった』と回答しており、生涯の健康づくりにとって牛乳の飲用が重要であることについて、引き続き啓発に努めていく必要がある。
- ・一方、自由意見では、牛乳の飲み残しは『フードロスの問題として改善が必要だと思う』という保護者の意見のほか、生徒・保護者ともに『牛乳の有無を選択できるようにしてほしい』という意見も多かった。また、生徒・保護者ともに約4割が家庭弁当の場合でも牛乳を頼みたいと回答しており、自由意見でも牛乳単品での注文を希望する意見が多かった。
- ・給食における牛乳の選択希望制や家庭弁当の生徒の牛乳の注文については、自宅での牛乳の飲用実態も踏まえ、中学生の適切な栄養量の確保について、学校（給食）と家庭との連携・役割分担を前提とし、実施に向けた検討が必要である。

<給食費>

- ・保護者の約7割が『給食費が上がっても給食内容を充実させてほしい』と回答しており、給食利用状況別でも、概ね同様の傾向が見られた。
- ・自由意見でも『中学生の成長に必要な栄養量を確保するためなら、給食費が上がることもやむを得ない』、『給食費が高くなっても良いので、子どもたちが喜んで食べられる献立にしてほしい』、『金額よりも、おいしくなる工夫をしてほしい』という意見もあるなど、相応の経費を負担しても給食内容の充実を希望する保護者が多かった。
- ・また、『値上がりの金額による』、『給食費を上げるなら、もっと満足できる内容や味にしてほしい』という意見もあったほか、『給食費を上げると、ますます給食を頼まない人が増えると思う』という意見もあることから、給食内容の充実について、必要となる経費とのバランスを十分に見極めながら、アンケート結果を踏まえた十分な検討が必要である。
- ・また、給食費のあり方については、『牛乳分の費用を食材に回したらよいと思う』、『牛乳を選択制にして、牛乳以外を300円以内で提供してほしい』、『給食費は300円のみで、牛乳を希望制にして内容を充実させてほしい』という意見も多かったことから、牛乳の飲用と関連して検討する必要がある。

<情報発信>

- ・本市の中学校給食が「多様な食材を使用し、栄養バランスのとれた献立としていること」については、保護者の9割近くが『知っている』と回答している。
- ・一方で、「地元産のこうべ旬菜や市内産生鮮野菜を積極的に使用し、米は100%神戸市産のものを使用していること」については、保護者の約半数が『知らなかった』と回答していることから、中学校給食の意義や魅力について、まだ十分な情報発信ができておらず、保護者に浸透していないことが考えられる。

- ・家庭との連携による食育の推進を図る観点からも、情報発信の取り組みは重要であり、既存ツールのさらなる活用とともに、効果的な情報発信の手法を検討する必要がある。

＜申込方法＞

- ・給食を利用しない主な理由として、保護者の約2割が『申込が月単位でないとできない』と回答しているほか、自由意見でも、『1週間単位や1日単位で申込みがしたい』、『1日単位で申込みると利用しやすい』、『メニューを見て、必要な日だけ頼めるようにしてほしい』という意見が多かった。
- ・また、『注文や入金システムがややこしくて不親切なので改善してほしい』という意見もあり、保護者の意見を十分に踏まえたうえで、申込単位も含め、給食利用における利便性の向上について検討する必要がある。

＜全員喫食＞

- ・「現在、家庭弁当を持参してもよいこととしているが、今後、全員が給食を食べることになるとすれば、どう思うか」との設問では、全員喫食に対して、生徒の半数以上が賛成していないが、保護者では4割以上が賛成している。
- ・一方で、全員喫食に賛成していない保護者は約3割いるが、そのうち約6割は『子どもが給食を望まない』ことが原因であり、『家庭弁当を持参させたい』と回答したのは1割程度（保護者全体のうち約3%（786人/23,046人=3.4%））と低い割合となっている。
- ・自由意見では『子どもへの愛情表現の一つとして毎日お弁当を持たせてあげたい』という意見があるものの、『夫婦共働きのため、本当に助かっている』という意見も多く、中学校給食への保護者ニーズは高いのではないかと推測される。
- ・新学習指導要領（平成29年3月告示）において「学校における食育の推進」が明記されるとともに、平成31年3月に改定された「食に関する指導の手引」においても、子どもの発達段階に応じて、食生活に対する正しい知識と望ましい食習慣を身につけることができるよう、「学校における食育の推進」を図ることが明記されている。現在も全員喫食を基本としており、食育の「生きた教材」として、中学校給食の全員喫食は望ましいと考えられる。

＜実施方式＞

- ・自由意見では、生徒・保護者ともに、『小学校のような給食がいい』という希望が多く、『中学校に給食室を作ってほしい』という意見のほか、『給食センターからの配送（食缶）』や『近くの小学校からの配送』を希望する意見が多く、現在の『お弁当方式では限界があると思う』という意見もあった。
- ・そのほか、『ランチルーム等を作ってほしい』、『中学校の給食室で温められる機械があれば良いと思う』という意見もあった。
- ・実施方式の見直しについては、多額の経費が必要となるほか、学校施設の状況や学校生活への影響など様々な課題があることから、まずは現行方式での魅力化の検討を進めることが必要であるが、アンケート結果における生徒や保護者の意見を踏まえ、中長期的な課題として、必要経費の試算など課題の検証を行っていく必要がある。